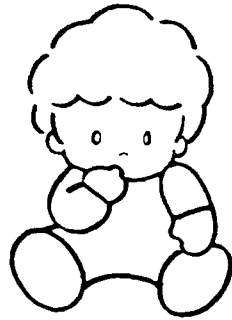


健康の

平成4年度

1歳6カ月児・3歳児健診結果より

一歳六カ月児健診



九割以上が受診

この時期は、歩行・言葉・歯の衛生面等、発育のチェックや育児をふりかえる大切な時です。乳児期に比べ健診の機会も減ってきていますので市の健診をすすんで利用しましょう。

女の子の方が「ふとりぎみ」が多い

子供の体格をみるためのものとしてカウプ指数がありますが、これは身長と体重のバランスをみているものです。

平成三年度のものですが県全体の統計をみると男の子でやせぎみ八・八％、ふとりぎみ八・六％、女の子ではやせぎみ九・九％、ふとりぎみが八・二％となっています。県全体と比較しても女の子のふとりぎみが少し多い傾向です。

水痘にかかった児が多い

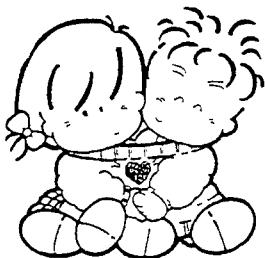
一歳六ヵ月までにかかった感染

症では水痘(水ぼうそう)がいちばん多く三五九人中七〇人(一九・五％)です。

「ことば」の相談が多い 一歳半

この時期、一番多い相談がことばについてです。ワンワン、ニャンニャンなど意味のあることばが出てきますが、ことばの出はじめが遅い子があるのでお母さん方は心配するようです。「からだ」では、虫歯、〇脚についてが多く、「育児面」では「なかなか哺乳びんがとれない」「つい哺乳びんで与えてしまう」「指しゃぶりがなおらない」などの相談が目立ちます。その他、ムラ食いや偏食など生活の悩みも多くきかれます。

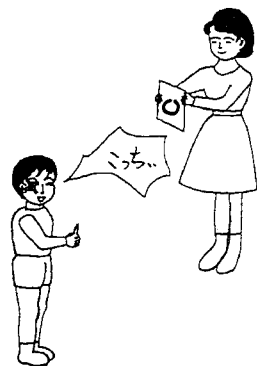
三歳児健診



受診率が前年より減少

平成三年度は九〇・六％の受診率でしたが、平成四年度は少し減少しました。

幼児の視力



市では、平成三年度より三歳児健康診査において、視聴覚検査が導入されています。

人間の眼は、一歳は一歳なりに二歳は二歳なりに徐々に発達しながら、だいたい六〜七歳位までに視力が上がります。特に三歳ごろまでの発達は急速で、正常に発達すれば視力はほぼ一・〇に達

します。

視力が完成する六〜七歳位までに、視力の発達をじやまするもの(遠視や乱視など)があると視力は発達しません。このような異常は早期に発見し、適切な管理をすれば正常な視機能が獲得できるので

す。
平成四年度三歳児健康診査では四人に一人の割合で再検査を必要とし、そのほとんどが三歳六ヶ月位までには、正常範囲に達しています。中には、遠視性乱視や斜視が早期に発見され、治療及び管理に結びついている児もいます。
入学までに完成する視力は、乳幼児の頃から大切に育てていくべきものです。

三歳児健診では尿検査、内科・歯科診察、発達検査、育児・心理相談、視力・聴力についての健診等大切な内容を行いますので忘れずに受診しましょう。

やせぎみの割合が多い

平成三年の県全体の統計でも、男の子のやせぎみ二〇・四％、ふとりぎみ五・二％、女の子のやせぎみ二四・五％、ふとりぎみ四・八％とやせぎみの割合が多くなっていますので同様の傾向といえます。

やはり 水痘にかかった児が多い

三歳児でもやはり水痘(水ぼうそう)が多いのですが、一歳六ヵ月児に比べるとその率は三九・八％(三三九人中一三二人)と二倍になっています。

「虫歯・ことば」の相談が多い

「からだ」では、虫歯・肥満などの体格について、また皮膚異常についてが多く「発達」では、「ことばが遅い」「発音がおかしい」など、ことばについてが一番多くきかれます。「育児面」では、「便をパンツにしよう」など排泄について、また「指しゃぶりがなかなかとれない」などの相談が多いです。